

2023年3月期 第1四半期決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2023年3月期第1四半期連結決算は、売上高80,688百万円、経常利益2,181百万円となりました。2023年3月期連結業績予想については、売上高338,000百万円、経常利益8,200百万円を見込んでおります。

【2023年3月期第1四半期連結決算】

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴う行動制限の緩和により、サービス分野での個人消費が持ち直すなど、景気は回復傾向となりました。

しかしながら、原料穀物は世界的に旺盛な需要に加え、深刻なウクライナ情勢の長期化による供給懸念により、依然として原料穀物相場は歴史的な高値で推移しております。さらに、為替相場の円安ドル高進行による輸入コストやエネルギーコストの上昇なども重なり、引き続き極めて厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社は創立90周年を迎える2025年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた2nd Stage「中期経営計画20-22」の最終年度を迎えました。5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各施策の推進に努めております。

当第1四半期連結累計期間では、「①基盤事業の強化」において、プレミックス事業を発展・進化させるための基幹工場として船橋工場内に「船橋プレミックス第2工場」を新設し、6月より操業を開始いたしました。変化するニーズや要望に対応することで、よりお客様にご満足いただける安全な製品の提供を目指してまいります。

「③社会的課題解決への貢献」では、「昭和産業グループ環境目標」を新たに設定いたしました。CO2排出量46%以上削減(グループ全体2030年度目標、対2013年度)、食品ロス発生量30%以上削減(昭和産業及び食品ロス発生量が100t/年以上のグループ会社6社2025年度目標、対2018年度)、水使用量原単位12%以上削減(グループ全体2030年度目標、対2019年度)の実現を目指してまいります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は80,688百万円と前年同期に比べ11,812百万円(17.1%)の増収となりました。営業利益は1,815百万円と前年同期に比べ772百万円(74.1%)の増益、経常利益は2,181百万円と前年同期に比べ833百万円(61.8%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,426百万円と前年同期に比べ603百万円(73.3%)の増益となりました。

【2023年3月期連結業績予想】

2023年3月期の通期業績予想および配当予想につきましては、2022年5月13日に公表した「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」では未定としておりましたが、第1四半期(4～6月)の業績の動向を踏まえ、現時点において入手可能な情報及び予測等に基づいて2023年3月期の通期業績予想を算定致しました。

詳細につきましては、本日(2022年8月5日)公表いたしました「通期業績予想(連結・個別)および配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

以 上

＜本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先＞
昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当：赤松
TEL：03-3257-2042